

辻元清美の

永田町航海記

リターンズ

87

イラストレーション/石坂啓

社

民党に離党届を提出しました。まず、「社民党の辻元清美」を応援して下さった方々や、タッグを組んできた福島みずほ党首をはじめ仲間の皆さんにお詫びをしなければなりません。決断に到るまで苦悩しました。でもピースポルト立ち上げの原点に戻り、これから流動化する政治の荒波に立ち向かっていきたいと思えます。

私は一九八〇年に上京し、平和運動の集会などに参加。でもスローガン・反対連呼型運動に馴染めず飛び出して、ピースポルトを設立した。人とモノと情報を具体的に動かし、経済活動にも食い込みながら平和を追求する。現実とコミットするから矛盾を抱えるが逃げずにムーブメントを作った。ピースポルトには延べ一〇万人もが参加し、世界中のNGOや国連とも連携し今も活動を広げている。当時は、「お遊びだ」と旧来の運動関係者の批判も受けながら数億円のプロジェクトの「無謀」に挑戦した。二三歳の時だった。

九六年一〇月、衆議院議員に当選し、翌月から本誌での連載開始。当時、私

自分の信じるやり方で進みたい 社民党に離党届を提出しました



は自社と政権の一年生与党議員。市民運動の仲間から自民党と同居するなんてと言われ苦しんだ。だったら「取るモン取ったれ」の根性で、反対する自民党議員の家まで押しかけ説得しNPO法を作った。沖繩・辺野古の建設反対運動では「情報公開法と環境アセスメント法を駆使して闘ってるよ」という声がある。この二つの法律にも携わった。政治は成果を上げてなんぼのものや。竹下登さんから「政治は四割主張が通れば御の字だ」と教わった。

自社から社民党が政権離脱後、周辺事態や国旗・国歌法、憲法調査会設置が矢継ぎ早に。タカ派的な流れを政権内で止めていた役割を実感した。

その後「総理、総理」で追及の急先鋒。一転、辞職・逮捕・裁判。留置場で「権力」を思い知る。そして選挙による政権交代を果たし副大臣に。JR不採用問題決着や中国人旅行者の観光ビザ緩和などを実現させた。

そして、二度目の政権離脱。鳩山前総理が普天間基地の移設先を辺野古に戻すのを止めるため最後まで説得したが、政権内にいながら止められなかった。政権離脱時の福島党首の決断はあつぱれ。一方で「政権を去ると歯止めが無くなり憲法が危なくなるのでは」という心配が心をかすめた。沖繩の怒りは沸点なのに、今後はどうやって官邸に届けるのか。この決断が自民党復権に手を貸すことにならないか――。

社民党の全国幹事長会議では「今後は独自色を出し、きつぱりと主張する立場で」という意見が圧倒的だった。一定の支持を増やすには正しい選択だと思ふ。しかし理念を大事にするからこそ、現実と向き合わなくては。目指す頂が同じなら、山の登り方は違ってもいい。ピースポルト同様に、政治の場でのフィールドの再構築をしたい。自分の信じるやり方で進もう。そうして離党を決断した。「初心を忘れず」土井たか子さんがかけてくれた言葉をかみ締めて。(つじもと きよみ・衆議院議員)